

ピエロハーバーの意志



Site

大阪市北区中津 国道 176 号線中津高架下（全長：約 415m 区間）

○中津

都心梅田のすぐ北側に位置しながら、敷地周辺は下町の風情を残す低層住居が建ち並ぶ。近年は高層マンションの増加し、現在もお建設が進む。

○高架橋・高架下

・昭和 7 年完成。それ以来それ、大部分は倉庫や工場、駐車場として利用されてきた。高架の中に道が通っており、北側は阪急電車の高架、南側はビルに囲まれ、昼でも暗い。外の世界とは隔離されたような中津高架下。

・2003 年 高架下の倉庫跡地にビエロハーバー誕生

“芸術文化村”と名乗り、カフェ・レストラン、スタジオ、ステージといった機能が混ざり合った場所。主催者や学生、地域の人々とともに作り上げたその空間は人々が集い、音楽や演劇が生まれる。ビエロハーバーとそこに集う人々の営みが人気の無い高架下に新しい風景をもたらした。

・2014 年 中津高架橋は老朽化に伴う全面的耐震補強工事のため、立退きが求められ、ビエロハーバーもまた移転を余儀なくされた。

高架下が躯体だけを残し更地に戻る、耐震補強後の姿とは...



Concept

交通によって生み出された空間、高架下。

人工的であるが、都市変容の中で自然と生まれた“洞窟”である。

ビエロハーバーの意志を継ぎ、人間の営みによって、変化し作り上げられていくクリエイティブの拠点としての中津高架下を提案する。

Strategy

・プログラムについて

創作とは何か。それは、謂わば「考える」「つくる」の連鎖である。その間には「表現する」「感じる」「見る」「聴く」「学ぶ」「議論する」といった様々な行為が絡み合い、人は何かを生み出す。

都心から住宅地を経て川へと至る高架に沿って

広場、工房・アトリエ、ブース、ギャラリー、図書館といった機能を空間の変化とともに設定する。

順路はない。どこからアクセスしても、どこから出てもよい。

両側行き止まりのこの暗く長い洞窟を行ったり来たり、出たり入ったり、時に腰を降ろしたり。

その間出会う自分以外の人々の営みが風景となり幾多のイメージとなり、また歩き続ける。

これはゴールの見えない創作活動のプロセスのようである。

・空間について

高架下に立つと、まず大きな天井と大きな柱が目に入る。大きな建築物の中、いや大きな長机の下にいるようだ。机と建築、そして高架は、スケールが違うだけの似たもの同士である。

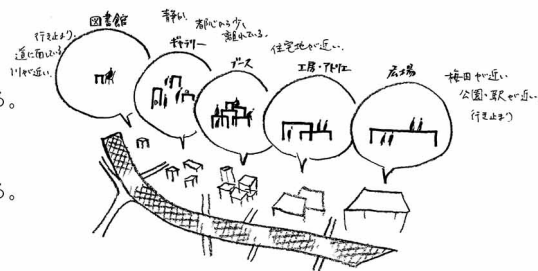
机～建築～高架のスケールの机を水平・垂直方向に配置する。

時に重なり、時に離れ。

大小様々な机によって生まれた空間の中では高架さえ身近な机となる。

机は空間を仕切り、結び、それ自体が空間となる。

机と机の距離・関係性の変化は空間を大きく変えていく。



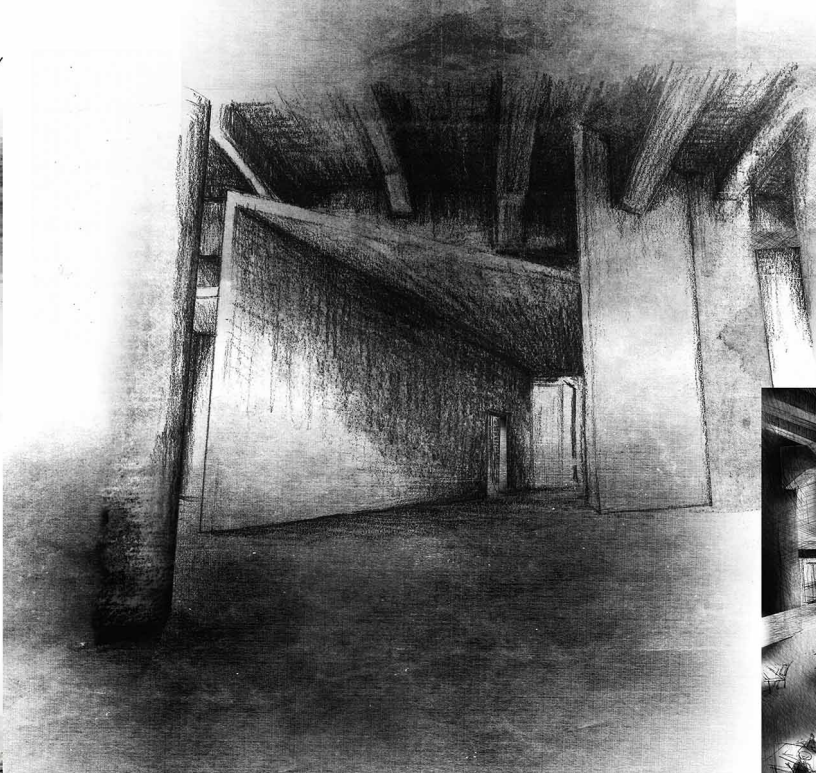
机によってできた高架下。その中を手探りに進む。

そこはまるで人間の創造性を呼び覚ます洞窟である。



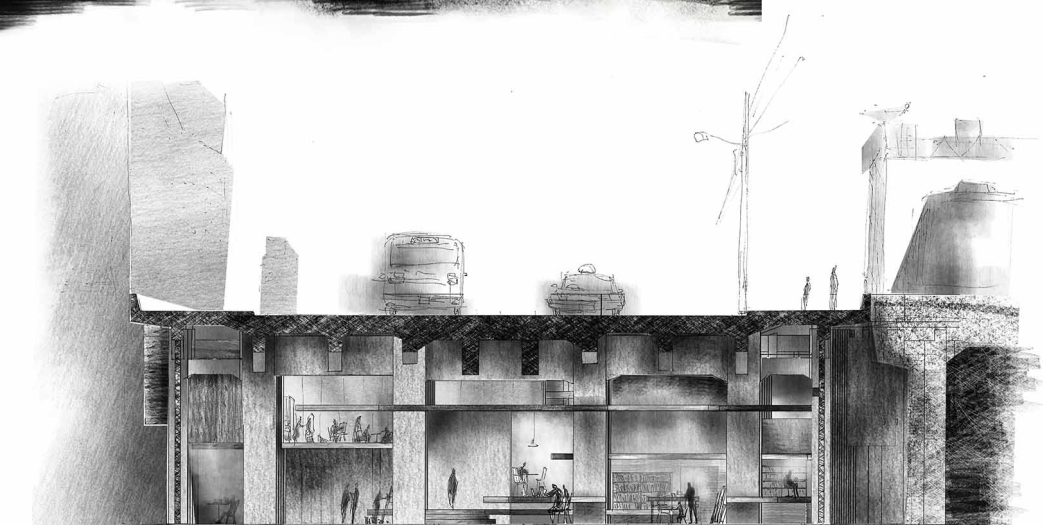
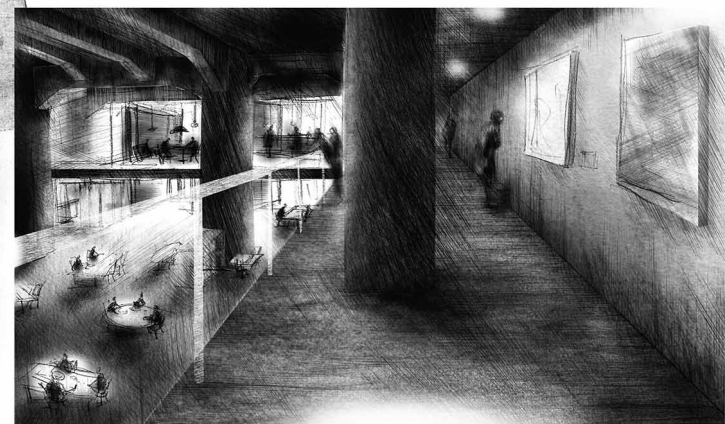


◀ライブラリー

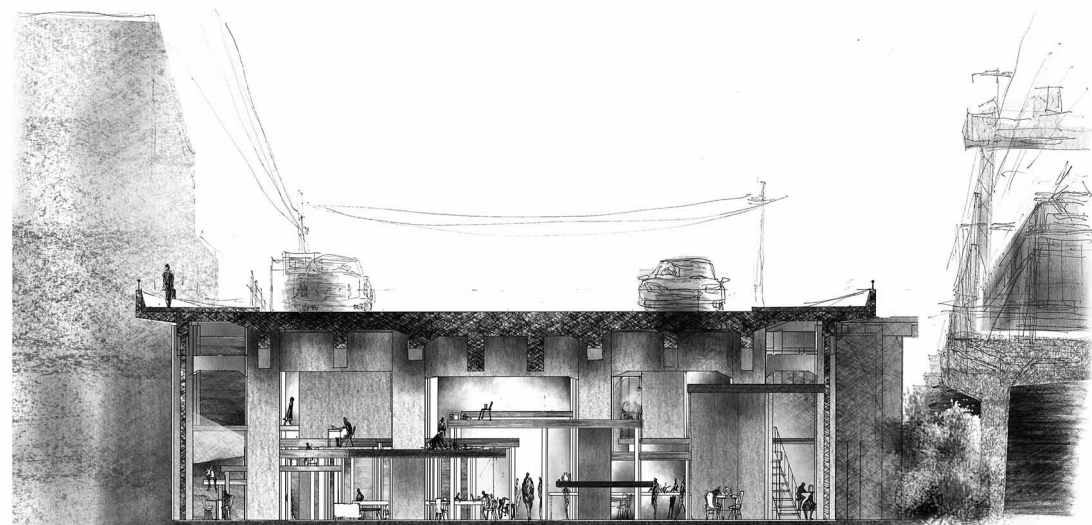


▲ギャラリーのエントランス

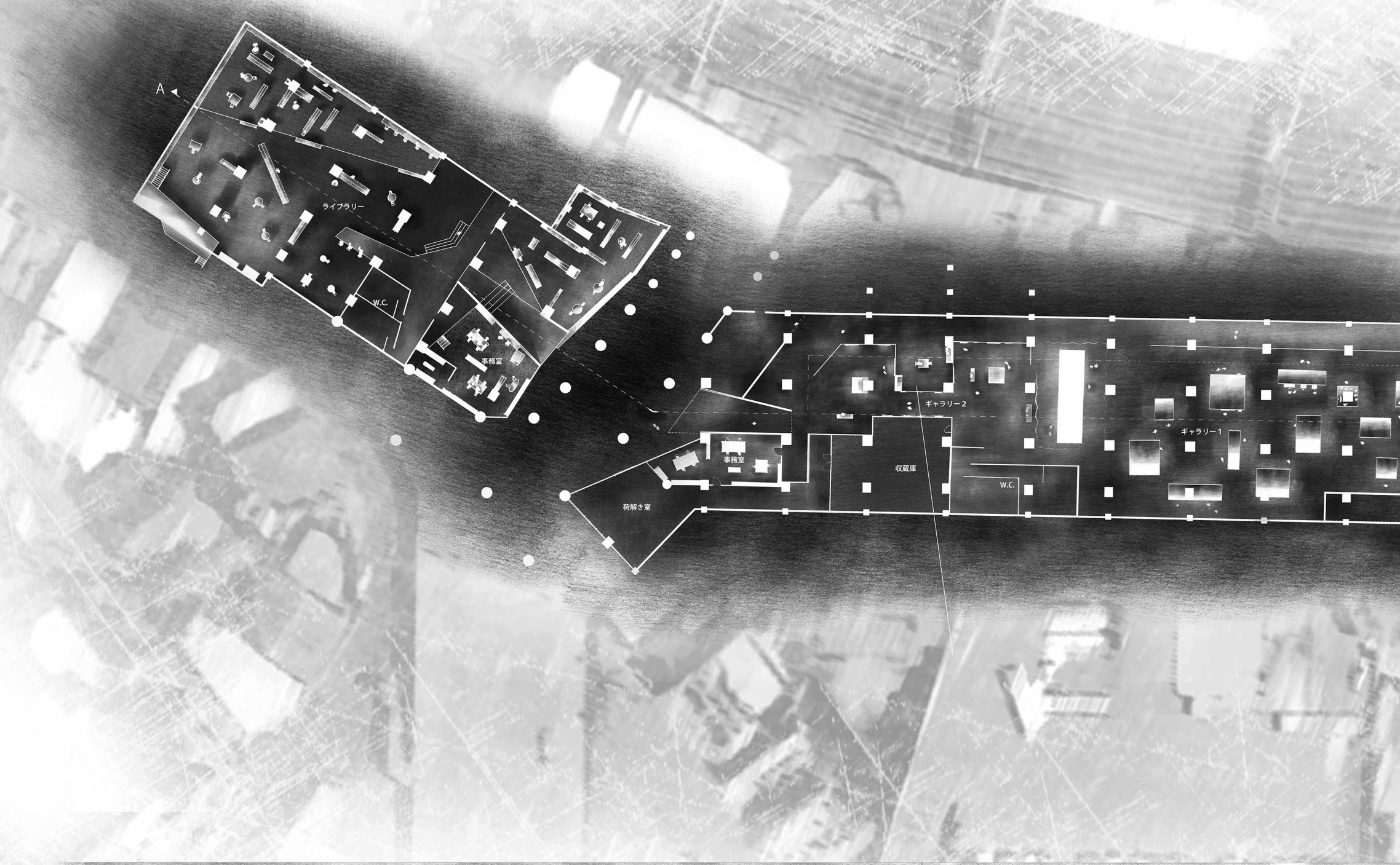
▼2F ギャラリー～オープンスペース



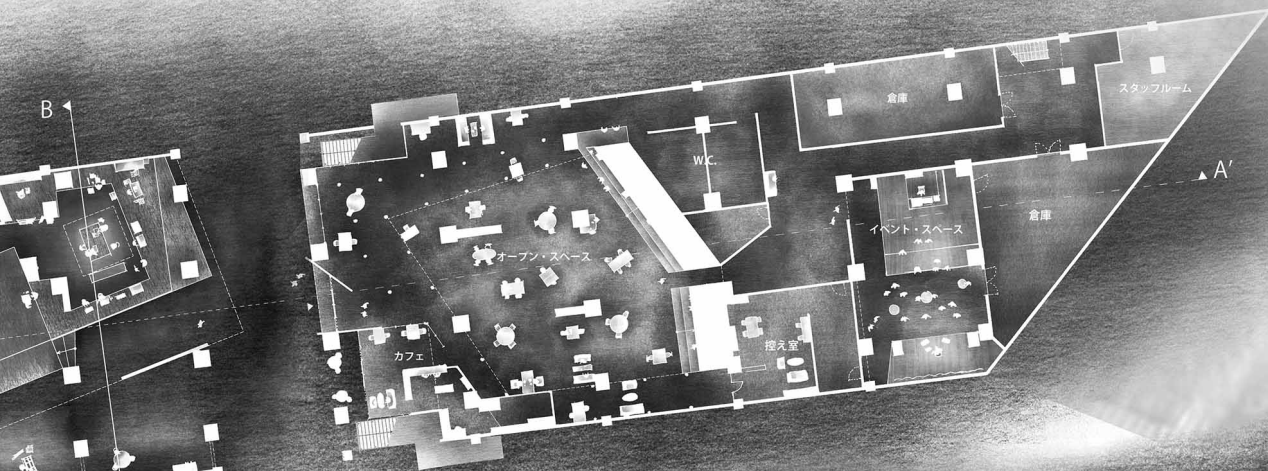
B-B' Section /S=1:100



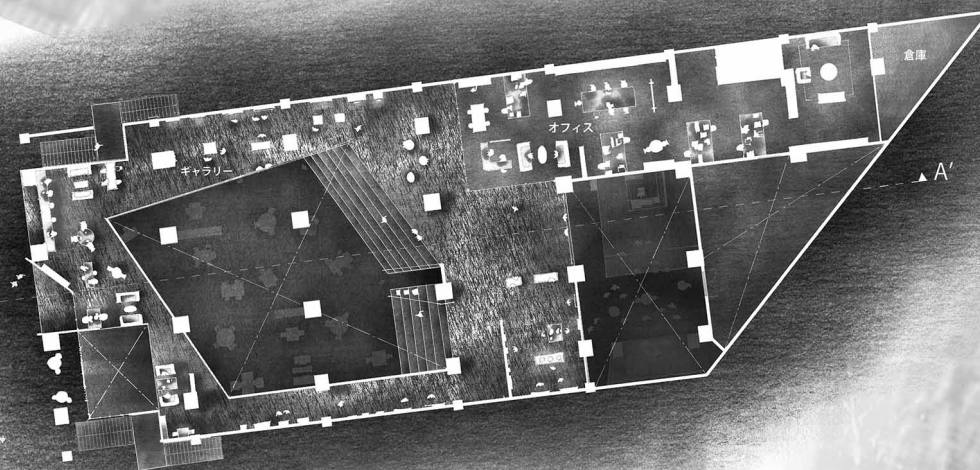
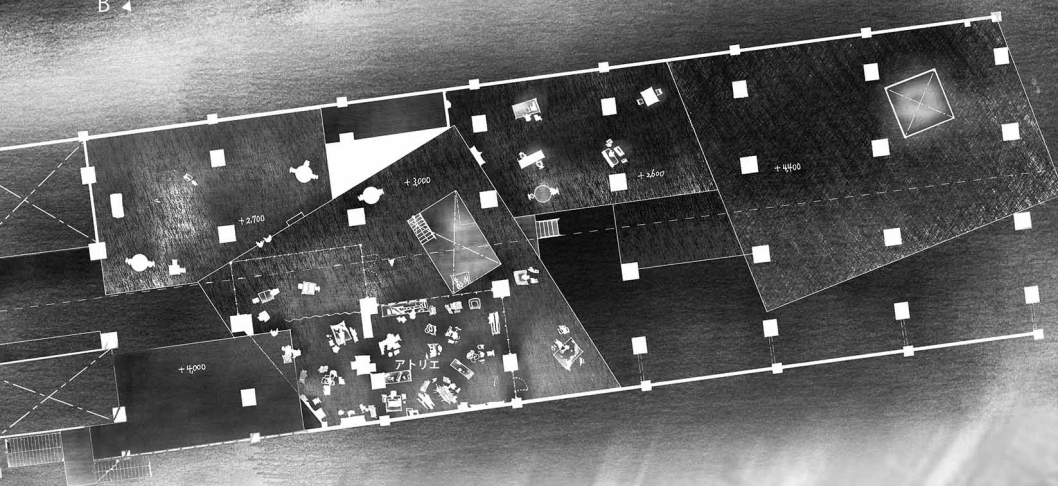
C-C' Section /S=1:100







Plan (GL+1,500) /S=1:200



Plan (GL+4,500) /S=1:200



A-A' Section /S=1:200